

ごあいさつ

皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、ディスクロージャー誌「118期営業の中間ご報告(2025年4月1日～2025年9月30日)」を作成いたしましたので、ご高覧いただきたいと存じます。

本誌では、中間決算の概要や業務内容、地域貢献に関する取組み状況などをまとめており、当行について一層のご理解を深めていただければ幸いです。

上半期の国内経済は、物価上昇や米国の関税政策などにより、不透明な状況が続くなかで、雇用・所得環境の改善が継続し、国内消費に持ち直しの動きがみられました。

鹿児島県経済におきましても、物価上昇の影響はあるものの、個人消費は緩やかに回復しつつあります。一方で、観光業では自然災害などの影響により、宿泊者数が前年を下回るなど、今後の動きに留意する必要があります。

このような状況のなかで、私ども南日本銀行グループは、「“つながり”の強さで、地域の輝く未来をつくる」というパーパスのもと、取引先事業者に対して迅速な資金繰り支援を行うとともに、WIN-WINネット業務(新販路開拓支援業務)を中心とした各種支援により、事業者及び個人のお客さまにしっかりと寄り添い、地域経済の活性化に尽力してまいります。

変革ステージと位置付けた第1次中期経営計画「インテグリティある組織への変革」は、今年度で最終年度となりますが、将来の成長に向けた重点戦略の一つとして、人材育成を柱とした新人事制度の運用を開始しました。

新人事制度では、お客さまの多様なニーズに対応できる「プロの人材」を数多く育成するとともに、データ分析やAIを活用できる「データ人材」の育成にも積極的に取り組んでいます。こうした人材の育成を通じて、より効果的な経営支援を実現することで、地域のサステナビリティ向上に繋げてまいります。

引き続き、多様化する中小規模事業者の経営課題の解決を力強く支える『地域に責任を持つ“真の金融機関”』として、南日本銀行グループの総力を挙げ、地域の皆さまとともに発展していくために邁進してまいります。今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



2026年1月
取締役頭取 田中 暁爾きょうじ